

チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F
TEL/FAX: 092-260-3989
E-mail: jimu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.
107

福島第一原発事故避難者の選択 ～帰るべきか、帰らざるべきか～

CONTENTS

日本衛生学会学術会議 市民公開講座に参加して / 震災後初の郡山への訪問 / ベラルーシのなかの日本 / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのおしらせ / 編集後記



子どもを守る。未来を守る

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店(支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106) (普) 1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

福島第一原発事故避難者の選択

く帰るべきか、帰らざるべきか

獨

協医科大学国際疫学研究室の木村真三先生より、3月28日に宮崎市のフェニックス・シーガイアリゾートで日本衛生学会学術会議における市民公開講座が開催されるとの案内メールがありました。



写真右／司会の木村真三先生と藤田博美北海道大
学名誉教授、同左上／飯館村の現状を発表される
伊藤延由さん、同左下／発表中の大越勝彦さん

木村先生とは昨年1月、4月のベラルーシ訪問に同行させていただきましたが、ベラルーシにおいても、福島支援でも木村先生との関係は重要であり、私自身も福島の現状を知るためにぜひ話を聞きたいと思い、医療通訳の山田英雄さんとともに参加してきました。

日本衛生学会のシンポジウム参加は一年前の和歌山に次いで2回目です。この時はベラルーシからプレスト州立内分沁診療所のアルツール・グリゴロビッチ所長が来日、講演しています(チエルノブイリ通信100号参照)。

報告／CMN理事 河上雅夫

今回のシンポジウムは市民公開講座

として、木村先生からも地元の方への周知を依頼されましたが、研究者20名、一般市民25名の参加があり、広報の役目を果たすことができました。中には田植えを早く終えて参加したという方もおられました。福島から遠く離れた宮崎でも放射能汚染に対する関心が高いと感じました。

最初に話されたのは飯館村の伊藤延由さん。伊藤延由さんは、事故の1年前から東京の会社が運営する「いいたてふあーむ」の管理人となつて農業を始めました。事故後は避難先の新潟県と飯館村を往復する生活を続けながら、環境や農産物の放射能汚染調査を続けてあります。

今年3月31日に飯館村は浪江町・川俣町とともに避難指示が解除されま

した。飯館村は福島第一原発の北西部

に位置し、最も南部の地域が原発から30km圏内に入り、大半が40km前後の距離にあります。標高400〜500メートル、75%が山林で、年平均気温10度、冬にはマイナス20度を観測するような気候の村に6200人が暮らし続けていました。事故直後の風向きが災いして高濃度汚染地になったのに、当初は避難指示が出ず、1カ月後の4月11日に避難指示が出ました。その間には汚染状況を知らずに暮らしていた人々や、自主的な測定で汚染を知り、いち早く避難した人などがいて、その後の行政に対する不信につながっていきま

した。伊藤延由さんは避難先の新潟県と飯館村を往復する生活を続けながら、環境や農産物の放射能汚染調査を続け

てあります。その結果の一部を最後に示します。これを見ると、空間線量率の大小と汚染は比例していないし、経年経過では変動が大きいことがわかります。

二人目の演者である大越勝彦さんが住んでいるいわき市志田名地区は、汚染がひどく（場所によっては20〜30マイクローンベルト／時のところもあった）避難準備区域に指定されていきました。いわき市が安全宣言を出したために避難が解除されました。ところが、若者は地元を離れ、高齢者は地元に残りたいために家族が分断されるなどのことが起こっています。

宅地や農地の除染をしても山林は除染されず思ったように線量が下がっていないそうです。また、循環型農業のお手本のような地域だったのに、放射能の影響でその農業、林業が崩壊して高齢者が寝込むようになっていくという。最後に、農産物には放射能が移行しない方法で耕作しており全て検査しているので安心してくださとのことでした。

最後に木村先生が講演されました。福島県は6年間で13万人の人口流出

があり、これは周辺の県の2倍の割合とということです。震災関連死は毎年2000人前後で増え続けている。また、震災関連自殺も福島だけが多くなっているとのことでした。

福島の子供たちを福島第一原発見学に招待するというニュースがあったが、復興ということについて問題のすり替えがあるのではないか。日本政府が進めるのは帰還政策による原子力事故の矮小化、復興という名の「切り捨て」が行われているのではないか。

川内村は2012年1月末にいち早く30キロ圏を避難解除した。しかし、都市部に避難したままの人たちが続出している。

避難指示解除により2012年8月に精神的損害賠償の10万円／月の支援が打ち切られ、多くの村民が難民化した。さらに、今年3月には借り上げ住宅に住む人々の補助も打ち切られた。

2734人いた村民は完全帰村者703人となったが、村は村内に郵便物が送られてくる1890人を村民として算定している。（文責：河上）

・山菜、茸の経年経過 【伊藤延由さん作成のデータを一部編集 (Bq/kg)】 / kg

種目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	備考
ふきのとう			2,83	319	201	108	
//					143	201	沼平
山ウド		81	72	103			除染済み
タラの芽			320	779	295	793	除染済み
コシアブラ				35,593	270,238	61,727	
ワラビ			1,503	269	3,047	916	
ミズフキ			446	452	410	399	
ハチク			3,642	797	512	307	
レクソン			291	64	67	35	
セリ			151	80	306	68	
チチタケ		76,000	500				
松茸	866	3,590	3,032	7,244	5,410 29,000	3,493 ~ 14,464	
猪鼻茸	44,300	48,800	27,940	72,100	44,460	3,820 ~ 10,873	香茸
あか茸			14,018				
天然椎茸			98,839				

震災後初の郡山への訪問

島根大学医学部医学科四年 若山和明

今年度より島根大学・野宗義博先生の福島・関東での甲状腺検診に同行する医学生に対して交通費の支援を行うことになりました。その第1回目となる4月22、23日の郡山での検診の報告を若山さんにいただきました。

今

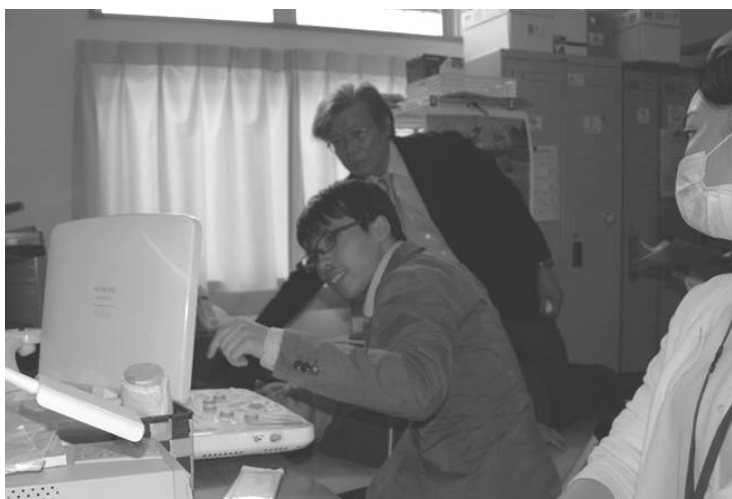
回の郡山での検診に随行させていただくあたり、大田市立病院の野宗義博先生には大変お世話になりました。私が今回の検診に参加させていただくきっかけとなったのは、大学の特別授業において野宗先生が

講義をされた際に、検診への随行を募集されたことでした。そもそも被災地を自分の目で見なければ何が起きているかというのは本当には分からないと感じており、被災地を訪れたいと思っていました。6年間ずっと行けずにいきました。そこへ野宗先生より今回のお話をいただき、自分一人で行くより多くのことを見る機会を頂けるとも考え、随行させてもらうことに決めました。

ました。一般に放射線誘発性の甲状腺乳頭癌の発症は、被ばく時が40歳以上であれば発症リスクは消失するとされており、これまで「たちね」が主催した検診でも子供の診療が主だったようです。しかし今回の検診では子供の受診は多くなく、50代から90代の大人が主でした。施設スタッフの方に話を聞いたところ、震災当時、多くの障害者施設では避難が遅れ、放射線被ばくの不安を持っている方が多いということでした。また、じつと

も多く、野宗先生が「被ばくには直接関係ないかと考えられます」と言われるだけで不安感が弱まったようでした。同じ数くらい、遺伝的に癌になりやすいのではと心配される受診者も多く、「放射線誘発性疾患は遺伝的に発症しやすくなるというものはなく、あくまで放射線被ばくによるものである」と説明されることで、同じように不安感を取り除かれたようでした。

甲状腺エコーの研修の様子



今回の検診は、認定NPO法人いわき放射能市民測定室たちねが企画する就労継続支援B型の施設で行われたもので、主に知的障害を持つ利用者さんやその家族、施設スタッフの他、これまでも「たちね」が行った検診に受診したことのある一般の方が受診され

ていることが難しいために病院での受診が難しく、震災以来一度も検診が出来ていないという不安もある人が多いということで、今回の検診を喜んでおられる方が非常に多くおられました。

今回の検診の中で気づいたこととして、放射線被ばくには関係しないだろうと考えられる病態を訴える受診者

震災から6年が経過し、放射線誘発性甲状腺癌としてはこれから数が増えていくだろう時期です。しかしながら、当たり前のことかもしれませんが、その関心は薄れていく時期でもあります。行政だけでなく、そこに住む人々の意識も薄れつつあると「たちね」スタッフの方も心配しておられました。復興と共に、いつまでも暗い気持ちで生活せず、明るく楽しい生活

を取り戻すことは非常に大切ですが、危惧し続けなければならないことに対する関心をいかに保つていくかが6年たった現在の課題であると分かりました。

検診以外でも、被災地を自分の足で訪れたことで多くのものを得られました。検診後、郡山の街で夕飯を食べに出た際、そのお店の常連客の方から様々な経験談を聞かせてもらいました。

震災により家の下敷きになった若い女性の救助要請があった際、道が分断されたことにより本来の管轄であるA市の救助隊が向かうより、常連客の方が所属するB市



堤防の再建が進む海岸に、引き取り手がないままに取り残された船

の救助隊が向かう方が早く現場に到着できると分かっているにもかかわらず、行政も混乱しており要請が出ずに何もできず、A市の消防隊が道を迂回して現場に到着したときにはすでに遅かったこと。復興のため補償金は川を一本挟むと10倍以上の額が変わり、その被害の大きさに比例しないこと。高齢者のみの世帯では、倒壊した家を新しく再建したところで長く住むことはないと考え、補償金は十分にあっていなくても仮設住宅から出られずにいること。



駅舎を再建中の富岡駅と海岸の間にこれから増えていくのであろう汚染土集積場

いるように言われていますが、実際にはまだ問題が山積みであるという話を聞かせてもらいました。

検診翌日、郡山市から電車に乗り海岸に出て、福島第一原発と第二原発のちょうど中間に位置する富岡町を訪れました。ほんの一月前に避難指示が解除されたばかりの町で、津波の影響が残る光景を目に焼き付けて帰りました。富岡駅にはまだ電車が通っていないため、一つ手前の竜田駅まで電車でそこから代行バスを利用しましたが、このバスは富岡駅を出た後、現在まだ帰還困難地区に指定されている場所を通過してその先の町へ向かう。タイヤや車両についた汚染



竜田駅の周辺には新しい平屋の集合住宅が並ぶ

物質がそのまま次の町に運ばれるのではないかと考えますが、これはこのバスに限らず、現在富岡町の汚染土を運んでいるトラックにも言えることだと「たらちね」スタッフは嘆いていました。竜田駅の周辺には新しい平屋の集合住宅が並んでいます。すぐ隣には病院が併設され、これは主に仮設住宅から出られずにいる高齢者世帯の新しい住居となります。今年三月には、各地に散在する仮設住宅の多くが閉鎖され、今後はここで一括管理ができるようにという行政の都合も垣間見えます。

今回の検診に随行させてもらい、被災地の本当の姿の一端をやっと見ることができました。被災地、被災者のために今の私ができることは少ないです。しかし、私の住む町から40km圏内に原発があり、海岸から続く平野部に住んでおり、万一、いつか私の町にも同じことが起った場合、私たちは何に苦しみ、どのような問題に晒され続けることになるのか、どのような準備をしなければならないのかという多くの教訓を得られました。

ベラルーシのなかの日本



ベラルーシ在住の田中仁さんより、ベラルーシ便りが届きました。日本とベラルーシの友好関係を紹介する観光ツアーに参加されたときのレポートをもとに、ミンスクやプレストの観光名所などを写真を交えてご紹介いただいています。

日

本とベラルーシの関係で真っ先に思い出されるのが、両国

に共通する原発事故の歴史です。チェルノブイリの悲劇から31年、福島事故から6年経った今でも日本人、ベラルーシ人ともにお互いの国のことを気にかけています。そんな遠くても身近に感じられる国ベラルーシでは日本文化が根強い人気を誇っています。親日家の多いベラルーシを訪れる日本人は、街並みの美しさ、自然の豊かさ、現地の人々の優しさに触れ、好印象を持つことでしょう。

今年にはいつてから、日本も含めて80か国からベラルーシに来る旅行者は5日以内であればビザなしで滞在できるようになりました。首都ミンスクでは夜に建物全体が光のイルミネーションにつつまれる国立図書館(写真①)、戦前の旧市街の面影が残った歴史的な通り《トロイツカエ・プレドメス

ツエ(同②)が有名で、プレストの町でいえば大祖国戦争の英雄をかたどった巨大な要塞の記念碑(同③)、洋風な《ソビエト通り》(同④)で毎晩日が沈む時刻に街灯へ灯がともされるデモンストレーションの名物があります。またミンスク郊外に位置する《ミール城》(同⑤)と《ニヤスヴィシユ市》(同⑥)、プレストの北ポーランドとの国境にある自然公園《ビャウオヴィエジャの森》(同⑦)は世界遺産に登録されています。また4月26日にチェルノブイリ事故の悲劇・犠牲者をしのんで花を添える場所があります。ミンスクでいうと、事故直後の消火活動にあたった英雄バシリー・イグナチenko氏の名がついた《イグナチenko通り》(同⑧)、広島の被爆敷石が置いてある《民族・友好公園》(同⑨)等です。

ベラルーシでは毎年春に《観光フェスティバル》があり、数多くのツアーが無

料で行われます。今年は4月22、23日の二日間にわたって開催されました。その中で23日(日)の午前10時からミンスク中心部にあるカトリックの聖シモン・聖エレナ教会前で《桜を探して》というテーマで日本にゆかりのある名所をまわるツアーがスタートしました。その教会の敷地にある長崎の浦上天主堂から贈られた《長崎の鐘》の前で学生ガイドのアナスタシアさんが話し始めました。「2000年に浦上天主堂からミンスクの聖シモン・聖エレナ教会に贈られた鐘がここに建てられました。その年に浦上天主堂から《被爆マリア像》も平和の象徴としてミンスクを巡礼しました。さら



聖シモン・聖エレナ教会前でツアー開始



長崎の鐘の前にて。写真左端がツアーガイドのアナスタシアさん



折鶴を長崎の鐘下のプレートに添える



仙台公園の桜の木が植えられた前で

日本とベラルーシの人々、そんな人の中からこそ交流が生まれ、友情に発展してきたのだとあらためて思い、春の観光経験となりました。

に鐘の下には原爆被害にあった広島・長崎、そして原発事故の起こった福島が埋められています。ここに建てられた《長崎の鐘》は放射能の被害にあったチェルノブイリや広島、長崎、福島の人々を勇気づけるとともに世界の恒久平和を願うシンボルとなっています。」

次に向かったのは教会から徒歩5分の位置にある《仙台公園》です。この公園は仙台とミンスクの姉妹都市友好を記念して2002年に造られました。「落ち着いた雰囲気、日本風な公園には東洋スタイルのデコレーションが施されており、ここにある両面時計台にはそれぞれベラルーシと日本の時刻

が表示されています。東日本大震災直後の2011年3月14日には地元ミンスクの人達が仙台公園に集まり、被害にあった日本人への思いを込めてろうそくに灯をともしました。「園内を回りながらガイドは続きます。」さらに、ここには2007年に仙台とミンスクの姉妹都市成立35周年を記念して植えられた桜の木があり、毎年5月になると花が開花するのを見ることがができます。」

仙台公園を一周した後、皆で一緒に折鶴をつくり2時間弱の観光は終了しました。ガイドしてくれたアナスタシアさんに話をきいてみました。プロのガイドを目指して勉強する過程で

アナスタシアさんは自身の国ベラルーシの中にある数々の日本にちなんだ名所や両国の交流・友好を知り、感銘を受けてこの観光ツアーを企画したということです。そして放射能の被害に苦しみながらも、それを克服してきた両国だからこそ悲しみを乗り越え、やさしくなり、お互いに分かち合えることがたくさんあると言ってくれました。やはりチェルノブイリ事故の被害国であるベラルーシ人にとつて、一度ならず放射能被害を受けながら立ち直ってきた日本という国は特別な存在のようです。

共通した心の悲しみとあたたかさを合わせ持ち、お互いを支えあってきた

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

石橋啓子 泉谷智美 稲毛修子 大淵西平 大淵清子 勝本芳子 貞池和恵 佐藤和子 佐藤久美 里見照子 渋谷けい子 関根敏子 高橋武三 田中裕一 田中啓 富田明美 中島乃婦子 藤井真弓 本田美穂子 丸山さより めぐみ保育園職員一同 本岡真利子 森戸春江 和田伸夫

〔都道府県別〕

【青森県】 1名	【東京都】 4名	【埼玉県】 1名
【静岡県】 2名	【愛知県】 1名	【三重県】 1名
【兵庫県】 4名	【島根県】 2名	【広島県】 2名
【山口県】 3名	【愛媛県】 1名	【福岡県】 27名
【佐賀県】 2名	【長崎県】 1名	【熊本県】 1名
【大分県】 1名	【宮崎県】 1名	【鹿児島県】 3名
計58名(匿名含む)		

●マンスリーサポーターの皆さん

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅

★ミンスク悪性腫瘍病院のユリー・デミチック所長がお亡くなりになりました。私たちの医療支援当初からお世話になった方です。御冥福をお祈りいたします。

★株式会社カタログハウス様より、100万円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。

合計	1,408,318円
*活動支援金	1,316,818円
*のぞみ21カンパ	1,000円
*東日本支援カンパ	64,500円
*おまかせカンパ	26,000円

子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 齊藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子 計121名(匿名含む)

2017年2月1日〜4月30日までに募金をしてくださいました方ならびに商品購入を通して活動を支援してくださいました方です。同封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ○印をさせていただきますの方々を紹介しています。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いします。なお郵便振替以外からの振込み等については許可が確認できなかったものとして掲載しておりません。募金者名の掲載を希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●今年度もよろしく願います。●救える命のためによく。●確実な活動の広がり感謝しています。●紅茶送付ありがとうございます。福島での被ばく被害が増えてくるのではないかと心配です。●いつも応援しています。微口ながら。●ながく無沙汰しています。その後チェルノブイリの皆さまはいかがなでしょうか。●こいねいなお心遣いをありがとうございます。

募集しています

月々

300円からの募金で気軽に、「コッコッ チェルノブイリ支援をはじめませんか? マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金額がゆうちょ銀行総合口座から自動的にCMNへ寄付されます。」「毎回振り込みに行く手間を省きたい」「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にピッタリ。お申込み・お問合せはお気軽に事務局まで!

お知らせとお願い

振 込用紙は毎月同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎月同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要の方は処分をお願いいたします。
住 所を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

編集後記

チェルノブイリ原発事故が発生して31年。福島第一原発事故から6年。時の経過は早いものです。そして九州電力の川内原発1号機が2016年12月8日に運転を再開しました。原発が止まっていたときにも電力は供給されていました。それなのに運転再開。どうして?と疑問。電気を無駄にせずにと気をつけていたこの6年間。20世紀の大量生産・大量消費の時代は過ぎ去ったはずなのですが、それでもこまめに電力をはじめ、色んなものを無駄にしないように心掛けて暮らしていきます。(H・K)